

平成 25 年度社会貢献プロジェクト パーソナルモビリティ・超小型車両活用実験と 交通エコ化可能性の検討

代表：岡本直久（システム情報系）

メンバー：鈴木勉（システム情報系）、松本玲子（つくば市環境生活部環境都市推進課）

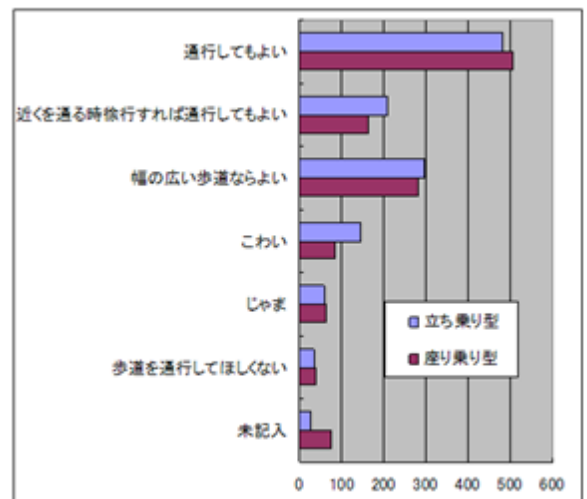
大久保 剛史（つくば市経済部産業振興課）

【概要】 つくば市はロボット特区の指定を受け、セグウェイなどのパーソナルモビリティ(以下 PM)の走行実験が展開され走行安全性の検証等が進められている。今後、これらの PM の普及過程を考慮した場合、個人所有よりもむしろ共同利用による活用方法が必要となる。そこで、本学つくばキャンパスをフィールドに、これらの新しいモビリティの活用と省エネ・環境負荷軽減への貢献の可能性を評価することを目的として、①PM 共同利用システム(シェアシステム)を構築し、②学内運送業務への活用可能性とエコ度の評価を行う。



【立ち乗り型 PM(セグウェイ)】

- ・ロボット特区実証実験推進協議会への参画
- ・実験におけるロボットの歩行者親和性の分析



【着座型 PM】

- ・高齢者交通としての可能性の検討（システム情報系 石田東生教授との共同研究）
 - モビリティ（外出機会）と生活満足度等との相関
 - 走行可能空間の確認（細街路のネットワークを最大限活用すれば、幹線道路を利用しなくても移動することが十分に可能）

【今後の展望】

- ・ロボット特区、パーソナルモビリティ社会実験への協力・貢献
 - 親和性、活用方法等の検討
- ・つくばモビリティ・交通研究会(つくば市・国総研・筑波大学)による各種交通調査データの収集
 - プロブカー調査データ、プロブパーソン調査

